

東京都衛生局公衆衛生部獣医衛生課「魚類の人工放射能検査報告」(昭和29年度区衛生課検査報告別冊)

—42—

東京入港(3月16日~12月) 延126隻(内高知早台船隻73隻(0印)一全体の58%)

検知日	入港日	船名	船名	船種	船主	長名	名名	船体	検知	積載魚類の量	選別位置	検知(原葉)量	分析方法	摘要
5	6, 7	和1 万寿丸	高知	丸	山下 仁	保進	男	(一)	(一)	まぐろ類 5,900	N 26°55'~27°20' E 139°40'~140°20'	まはだ 11 x	研究材料	国立衛生試験所
6	6, 8	和2 全功丸	三崎	丸	土倉 五郎	草七郎	男	(一)	(一)	〃 23,000	N 10°54' W 139°20'~140°40'	まはだ30 x	〃	〃
7	6, 25	和1 日東丸	宮古	丸	山崎 地	敏野門	男	(一)	(一)	〃 2,500	N 33° E 162	まはだ 4 x	〃	〃
小計										52400 x		45本 544 x 3		
1	7, 5	和1 さつま丸	鹿児島	丸	石川 島	保保	男	(一)	(一)	まぐろ類 35,000	N 11 E 170	まはだ 4 x	研究材料	国立衛生試験所
2	7, 8	和2 勝丸	宮古	丸	真栄 岩	博平松	男	(一)	(一)	〃 及 500	N 4 E 143	まはだ 2 x	〃	東海区水研
3	7, 13	和3 補濟丸	名古屋	丸	山口 順	昌美	男	(一)	(一)	まぐろ類 及 500	N 130° E 162	まはだ 6 x	〃	国立衛生試験所
4	7, 15	和1 福生丸	三崎	丸	中川 鶴	政一	男	(一)	(一)	〃 30,000	N 10 W 190	〃 5 x	〃	〃
5	7, 15	和1 和生丸	望戸岬	丸	柳原 能	博一	男	(一)	(一)	〃 5,000	N 6~8 E 138~144	〃 3 x	〃	〃
6	7, 19	和5 大正丸	安田町	丸	中村 引	自世吉	男	(一)	(一)	〃 6,500	E 100~143	〃 3 x	〃	〃
7	7, 20	和5 油津丸	油津	丸	杉本 上	雄丸	男	(一)	(一)	〃 12,000	N 320° E 148	〃 22 x	〃	〃
小計										103,500 x		45本 389 x 2		
1	8, 5	和3 佳音丸	三崎	丸	小川 正	彦雄	男	(一)	(一)	まぐろ類 18,000 x	N 3° E 180°	くさのり 17 x 8	研究材料	国立衛生試験所
2	8, 9	和1 自備丸	松	丸	松本 正	連敏	男	(一)	(一)	〃 8,000	N 3° E 150°	まはだ 2 x	〃	〃
3	8, 16	和3 加宝丸	望戸岬	丸	高松 本	功竹	男	(一)	(一)	〃 10,000	N 8° E 150°	まはだ他 168本	海洋投棄	東京出港
4	8, 16	和3 望幸丸	東京	丸	高松 本	功竹	男	(一)	(一)	〃 6,000	N 0° E 138°	まはだ3他 3本	研究材料	国立衛生試験所
5	8, 18	和5 公切丸	望戸	丸	榎久 保	之馬	男	(一)	(一)	〃 4,500	N 5~7° E 140~145°	まはだ他 30本	〃	〃
6	8, 21	和5 若栄丸	望戸	丸	榎久 保	日出男	男	(一)	(一)	〃 6,000	N 6~9° E 151~153°	〃 121本	海洋投棄	〃
7	8, 24	和3 相洋丸	三崎	丸	水村 鉄	助丸	男	(一)	(一)	〃 9,000	N 3~5° E 152~154°	〃 36本	〃	〃
8	8, 24	和30 白米丸	東京	丸	吉川 木	徳次郎	男	(一)	(一)	〃 4,500	N 37~39° E 162~165°	〃 420 x	〃	〃
9	8, 25	和11 加取丸	望戸岬	丸	坂本 高	一明	男	(一)	(一)	〃 9,000	N 5° E 157°	まはだ他 218本	〃	〃
小計										3007 x 3				

※

一九五四年・焼津港の月別入港の放射能汚染漁獲物廃棄漁船

(『焼津市史研究』(二〇〇五年)第六号より転載)

月・日	船名	トン数	県別	母港	出航日	廃棄主魚・本数	キロ
3・16	第五福竜丸	140	静岡	焼津	2・14	メバチ・カジキ	(約8トン)
4・13	第二吉祥丸	155	静岡	焼津	3・6	キハダ	42
5・24	第六瑞宝丸	53	大阪	大阪	5・4	キハダ	156
5・26	第二大勝丸	61	和歌山	太地	5・5	カジキ	213
5・28	三滝丸	50	三重	四日市	5・8	カジキ・サワラ	543
5・29	第五松栄丸	68	鹿児島	島平	5・5	シイラ	99
5・30	第八南海丸	99	鹿児島	島平	5・1	シイラ・サワラ	3747
5・31	葦歳(才)丸	71	和歌山	勝浦		カジキ	699
6・1	第一五長久丸	69	鹿児島	山川	5・1	シイラ	1425
6・1	羽島丸	64	鹿児島	羽島	5・1	シイラ	1740
6・2	第五進栄丸	36	高知	室戸	5・4	カジキ・シイラ	10716
6・5	豊生丸	70	和歌山	勝浦	5・1	カジキ・サワラ	12939
6・5	第八徳栄丸	21	静岡		5・19	カジキ・サワラ	2451
6・5	第三妙成丸	47	和歌山	太地	5・1	カジキ・サワラ	6912
6・6	第三運祐丸	50	和歌山			カジキ・サワラ	14436
6・8	手子后丸	50	和歌山	勝浦	5・18	カジキ・サワラ	13938
6・8	第五南進丸	43	鹿児島	串木野	5・12	カジキ・サワラ	1793
6・9	第五元光丸	38	和歌山		5・18	カジキ・サワラ	3891
6・10	第五瑞宝丸	54	大阪	大阪	5・19	カジキ・サワラ	3948
6・11	第五惠潮丸	44	徳島	地岐	5・17	カジキ・サワラ	5244
6・12	第一成福丸	32	高知	室戸	5・19	カジキ・サワラ	4317
6・13	第二錦載丸	39	和歌山	勝浦	5・19	カジキ・サワラ	7239
6・13	第三豊丸	32	高知	室戸		カジキ・サワラ	1581
6・13	第五桂丸	44	和歌山	串本	5・27	キハダ・カジキ	969
6・14	開清丸	61	和歌山	勝浦	5・20	カジキ・サワラ	2424
6・15	富浦丸	58	和歌山	勝浦	5・24	カジキ・サワラ	4773
6・16	第七豊丸	41	徳島	室戸		カジキ・サワラ	7640
6・18	第二明神丸	32	高知	焼津	5・14	カジキ・シイラ	1854
6・19	第六瑞宝丸	54	大阪	大阪	5・31	サワラ	213
6・19	高取丸	51	和歌山	勝浦	5・31	カジキ・サワラ	1368
6・21	三滝丸	50	三重	四日市	6・1	カジキ・サワラ	4617
6・22	第三松栄丸	32	鹿児島	島平	6・1	カジキ	357
6・25	第一三蓬菜丸	20	和歌山	串本	6・7	サワラ	714
6・28	天祐丸	80	宮城	石巻	5・18	キハダ	228
7・6	第五元光丸	38	和歌山		6・15	カジキ・サワラ	3093

水俣と魚介類汚染

被害

ビキニ事件三浦の記録

昭和二十九年に発生したビキニ事件で被害を受けたマグロ船は、三月十六日から十二月三十一日までの間、厚生省が指定した塩釜、東京、三崎、清水、焼津の指定五港に限っても、三八四隻が廃棄処分を受け、廃棄した量は約三七三トンといわれている。

三崎でも三月十七日から検査が始まった。検査の結果、放射能が検出されマグロの廃棄処分を受けた漁船は一五〇隻を越えた。だが、三崎港で検査を受けて放射能が検知された漁船、あるいはマグロが廃棄処分となった漁船の船名は三分の一近くが明確にわかっていない。また船名がわかっても、汚染された数量や、廃棄数量、廃棄方法、操業海域などがわからない船も多い。したがって、船名のみ場合は、船名のみを記載した。入手し得た資料から拾い集めたのが次の資料である。

(※印は、三崎での水揚げ記録はないが、三崎港所属の船は三崎港で水揚げした後、東京に回航しているのので、東京都衛生局の資料を参考としてあげたものである。従って入港日は東京港に入港した日である。●印は、廃棄場所が海洋か地中か不明のもの)

三崎港で放射能を検出された漁船一覧(3月17日~12月10日)

入港日	船名	廃棄尾数	廃棄数量(貫)	廃棄方法	操業海域
3 14	10 住吉丸	検出数微量		廃棄せず	サンゴ海海域
3 14	大宮丸	検出数微量		廃棄せず	サンゴ海海域
3 15	俊洋丸	検出数微量		廃棄せず	サンゴ海海域
3 16	13 海幸丸	検出数微量		廃棄せず	サンゴ海海域
3 16	13 丸高丸	検出数微量		廃棄せず	サンゴ海海域
3 17	5 幸進丸	検出数微量		廃棄せず	サンゴ海海域
3 17	8 福吉丸	検出数微量		廃棄せず	サンゴ海海域
3 17	11 丸高丸	検出数微量		廃棄せず	サンゴ海海域
3 19	※ 8 住吉丸	検出数微量		廃棄せず	サンゴ海海域
3 26	13 光栄丸	全量	一万三七四一・六	海洋投棄	ソロモンはるか東海域
4 14	瑞洋丸	九〇尾	四四七	地下埋没	ミッドウェイ南沖
4 14	12 宝幸丸	二尾	二六	地下埋没	ビキニ東方危険区域外
4 14	尾形海幸丸	二尾	一八	地下埋没	マーシャル海域
4 16	2 幸陽丸		七〇	地下埋没	ニューギニア海域
4 18	6 住吉丸	サメヒレに反応		処分せず	クリスマス島西海域
4 19	11 福生丸		二二五	地下埋没	フィジー北沖
4 21	12 海王丸	サメヒレに反応	三〇	地下埋没	南シナ海
4 22	7 明神丸	一七六尾	一七二四	海洋投棄	ビキニ東方危険区域付近

1-2 宮城県衛生部「放射能対策に関する報告」(55. 3)

5. 被爆漁船, 乗組員の検知状況

第五明神丸

船籍 宮城県 鮎川町  
 総噸数 129 噸  
 船主 阿部 薫  
 船長 阿部 莊作  
 乗組員 船長以下 24 名  
 漁獲量 15,000 貫  
 航行経緯 昭和29年1月28日石巻港出港  
 [215ページの図]  
 昭和29年3月1日 N 9° 28'  
 -E 177°19'

3月10日 N 10° 17'  
 -E 175°48'  
 3月11日 N 12° 13'  
 -E 173°38'  
 3月12日 N 13° 34'  
 -E 178°25'  
 3月13日 N 14° 34'  
 -E 163°26'  
 3月14日 N 15° 21'  
 -E 163°26'  
 3月15日 N 17° 56'  
 -E 161°40'  
 3月16日 N 19°58'

3月17日 -E 159°13'  
 N 20°32'  
 -E 156°34'  
 3月26日 塩釜港入港

放射能検査結果

(1) 船体の放射能検査結果

イ. 船左舷甲板 72 カウント  
 ロ. 舳 68 "  
 ハ. 船右舷甲板 73 "  
 ニ. 前甲板ブリッジ 68 "  
 ホ. 船長室 62 "  
 ヘ. マスト下部 100 "  
 ト. 後部甲板 124 "  
 チ. 延縄漁具 1,350~1,700 "

(2) 衣類の放射能検査

イ. 被服 1例 50~100 カウント  
 ロ. 帽子 1例 70~100 "

(3) 乗組員の健康検査 [216~7ページの表]

第十宝成丸

船籍 宮城県気仙沼港  
 総噸数 240 噸  
 船主 鈴木栄松  
 船長 鈴木菊雄  
 乗組員 船長以下 34 名  
 漁獲量 12,500 貫  
 航行経緯 昭和29年2月6日 唐桑村鮎立  
 出港 [218ページの表]

3月1日 N 10°45'  
 -W 171°17'  
 3月26日 N 22°45'  
 -E 169°05'  
 4月2日 東京築地入港  
 水揚完了  
 4月9日 宮城県気仙沼  
 帰港

放射能検査結果

(1) 船体の放射能検査結果

イ. 甲板 50~90カウント  
 ロ. 延縄 800カウント  
 ハ. 魚槽カバー 800~1,100カウント  
 ニ. 船室 120カウント  
 ホ. 船長室 50~85カウント  
 ヘ. 操舵室 20~30カウント

(2) 衣類の放射能検査

イ. 船員バンド 800カウント 1例  
 ロ. 腕抜き 1,000カウント 2例  
 その他カウント数の高い衣類は築地より  
 帰港の途中海洋投棄してあったので検査  
 不能である。

(3) 第十宝成丸乗組員の健康検査 [219ペー  
 ジの表]

第一金比羅丸

船籍 宮城県鮎川港  
 総噸数 139噸  
 船主 辺見安之助  
 船長 鈴木伊勢夫  
 乗組員 船長以下25名  
 漁獲量 2,000貫  
 航行経緯 昭和29年3月5日 館山出港 [220  
 ページの図]

3月22日 } 操業期間  
 4月5日 }

E 174°37' - N 9°53'

E 175°35' - N 8°56'

4月19日 三崎入港

4月22日 塩釜港入港

放射能検査結果

(1) 船体の放射能検査結果

前甲板マスト梯子 1,500~2,500カウント  
 前甲板ウインチ 300~400カウント  
 航海ランプ 1,000~1,600カウント  
 後部マスト 900~1,000カウント  
 魚艙ハッチ 100~200カウント  
 ロープ 1,300~1,700カウント  
 煙突 1,000カウント  
 船長室 700~800カウント  
 前甲板下船員室 600~800カウント

(2) 衣類の放射能検査

帽子 30カウント 1例

(3) 水揚漁獲物の放射能検査

2,000貫中下記放射能のあるびん長鮪9  
 本を検出, 土中に没却した。  
 7本 100~150カウント  
 2本 300カウント

(4) 乗組員の健康検査 [221ページの表]

1-2 宮城県衛生部「放射能対策に関する報告」(55. 3)

5. 被爆漁船, 乗組員の検知状況

第五明神丸

船籍 宮城県 鮎川町  
 総噸数 129 噸  
 船主 阿部 薫  
 船長 阿部 莊作  
 乗組員 船長以下 24 名  
 漁獲量 15,000 貫  
 航行経緯 昭和 29 年 1 月 28 日 石巻港出港  
 [215ページの図]  
 昭和 29 年 3 月 1 日 N 9° 28'  
 -E 177°19'

3月10日 N 10° 17'  
 -E 175°48'  
 3月11日 N 12° 13'  
 -E 173°38'  
 3月12日 N 13° 34'  
 -E 178°25'  
 3月13日 N 14° 34'  
 -E 163°26'  
 3月14日 N 15° 21'  
 -E 163°26'  
 3月15日 N 17° 56'  
 -E 161°40'  
 3月16日 N 19°58'

3月17日 -E 159°13'  
 N 20°32'  
 -E 156°34'  
 3月26日 塩釜港入港

放射能検査結果

(1) 船体の放射能検査結果

イ. 船左舷甲板 72 カウント  
 ロ. 舳 68 "  
 ハ. 船右舷甲板 73 "  
 ニ. 前甲板ブリッジ 68 "  
 ホ. 船長室 62 "  
 ヘ. マスト下部 100 "  
 ト. 後部甲板 124 "  
 チ. 延縄漁具 1,350~1,700 "

(2) 衣類の放射能検査

イ. 被服 1例 50~100 カウント  
 ロ. 帽子 1例 70~100 "

(3) 乗組員の健康検査 [216~7ページの表]

第十宝成丸

船籍 宮城県気仙沼港  
 総噸数 240 噸  
 船主 鈴木栄松  
 船長 鈴木菊雄  
 乗組員 船長以下 34 名  
 漁獲量 12,500 貫  
 航行経緯 昭和 29 年 2 月 6 日 唐桑村鮎立  
 港 [218ページの表]

3月1日 N 10°45'  
 -W 171°17'  
 3月26日 N 22°45'  
 -E 169°05'  
 4月2日 東京築地入港  
 水揚完了  
 4月9日 宮城県気仙沼  
 帰港

放射能検査結果

(1) 船体の放射能検査結果

イ. 甲板 50~90 カウント  
 ロ. 延縄 800 カウント  
 ハ. 魚槽カバー 800~1,100 カウント  
 ニ. 船室 120 カウント  
 ホ. 船長室 50~85 カウント  
 ヘ. 操舵室 20~30 カウント

(2) 衣類の放射能検査

イ. 船員バンド 800 カウント 1 例  
 ロ. 腕抜き 1,000 カウント 2 例  
 その他カウント数の高い衣類は築地より  
 帰港の途中海洋投棄してあったので検査  
 不能である。

(3) 第十宝成丸乗組員の健康検査 [219ペー  
 ジの表]

第一金比羅丸

船籍 宮城県鮎川港  
 総噸数 139 噸  
 船主 辺見安之助  
 船長 鈴木伊勢夫  
 乗組員 船長以下 25 名  
 漁獲量 2,000 貫  
 航行経緯 昭和 29 年 3 月 5 日 館山出港 [220  
 ページの図]

3月22日 } 操業期間  
 4月5日 }

E 174°37' - N 9°53'

E 175°35' - N 8°56'

4月19日 三崎入港

4月22日 塩釜港入港

放射能検査結果

(1) 船体の放射能検査結果

前甲板マスト梯子 1,500~2,500 カウント  
 前甲板ウインチ 300~400 カウント  
 航海ランプ 1,000~1,600 カウント  
 後部マスト 900~1,000 カウント  
 魚艙ハッチ 100~200 カウント  
 ロープ 1,300~1,700 カウント  
 煙突 1,000 カウント  
 船長室 700~800 カウント  
 前甲板下船員室 600~800 カウント

(2) 衣類の放射能検査

帽子 30 カウント 1 例

(3) 水揚漁獲物の放射能検査

2,000 貫中下記放射能のあるびん長鮪 9  
 本を検出, 土中に没却した。  
 7本 100~150 カウント  
 2本 300 カウント

(4) 乗組員の健康検査 [221ページの表]